

# 大和市立小中学校におけるヤングケアラー実態調査 報告書(全体版)

## 1 調査概要

### (1) 調査の目的

大和市では、ヤングケアラーを把握するとともに、当事者がヤングケアラーの認識を持ち、身近な大人や支援者に相談したり支援を求めたりすることができる関係構築を図ることを目的として、市内の公立小中学校の児童生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

### (2) 調査対象者

市内公立小中学校のうち下記の学年の全児童生徒

小学生:5・6年生 3,963名 中学生:全学年 5,515名

### (3) 調査方法

- ・ クロームブックを利用したWeb回答方式によるアンケート調査で、回答を希望しない場合や回答をすることが難しい場合は、回答しないことも可能です。
- ・ 原則、無記名ですが、ケアをしており、「相談をしたい」「支援を受けたい」場合のみ記名します。
- ・ アンケート調査後に、支援が必要な以下の支援対象者等を抽出し、学校・青少年相談室と情報を共有します。

①支援検討対象:家族のケアをしており、記名した子ども
②見守り対象:記名していないが、ケアの状況が下記のいずれかに該当する子ども ・ケア対象が父母 ・ケアを一人で担っている ・1日3時間以上のケア ※可能な範囲で、特定できた子どもと面談をします。

- ・ 特定した支援対象者等に、学校が子どもの気持ちに寄り添って面談を行います。
- ・ 面談により、支援ニーズを把握した場合は、支援対象者等の意向を確認し、保護者との面談に進みます。保護者の希望に応じ、青少年相談室又はすすく子育て課が面談し、福祉サービス等のコーディネートを行います。
- ・ 支援対象者等が変化を望まない、若しくは、保護者との面談を希望しない場合は、いつでも相談できることを伝え、見守り続けます。

### (4) アンケート調査実施期間

年2回、北部と中・南部に分けて実施しました。

第1回(中・南部) :令和7年 6月 11日 ~ 7月 4日

第2回(北部) :令和7年10月 14日 ~ 11月 7日

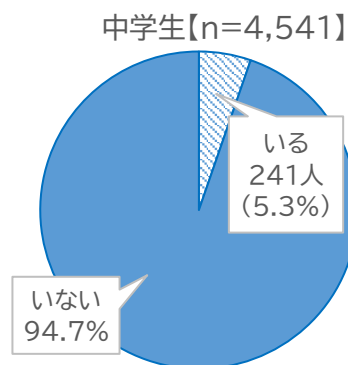
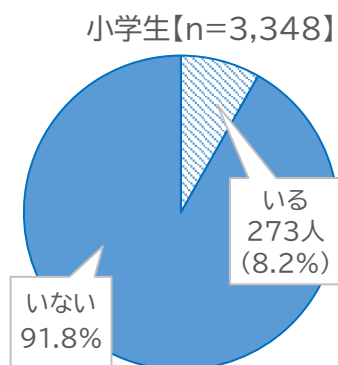
### (5) 回答状況

	対象者数	回答者数(回答率)
小学校(19校)	3,963	3,348(84.5%)
中学校(9校)	5,515	4,541(82.3%)

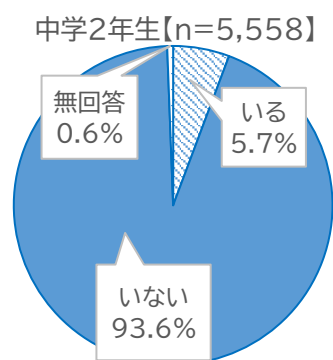
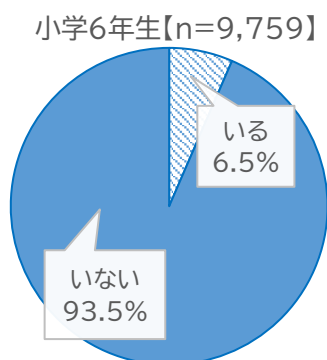
## 2 調査結果

### (1) お世話をしている家族の有無

- ・ 家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人の割合は、小学生で8.2%(273人)、中学生で5.3%(241人)でした。一概に比較することはできませんが、国の調査結果と同程度でした。



【参考 国調査 お世話をしている家族の有無】



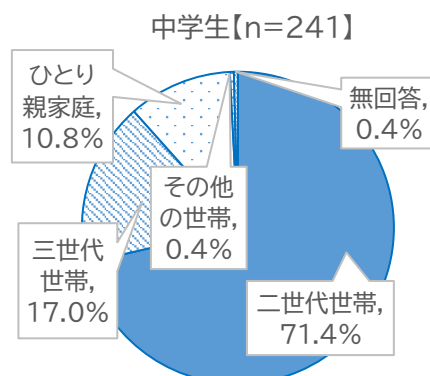
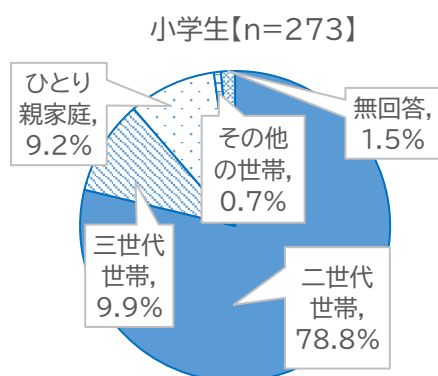
小学6年生:日本総合研究所「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」令和4年3月

中学2年生:三菱UFJリサーチ&コンサルティング「ヤングケアラーの実態調査に関する調査研究報告書」令和3年3月

※(2)～(14)までは、家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人のみの回答になります。

(2) 家族構成

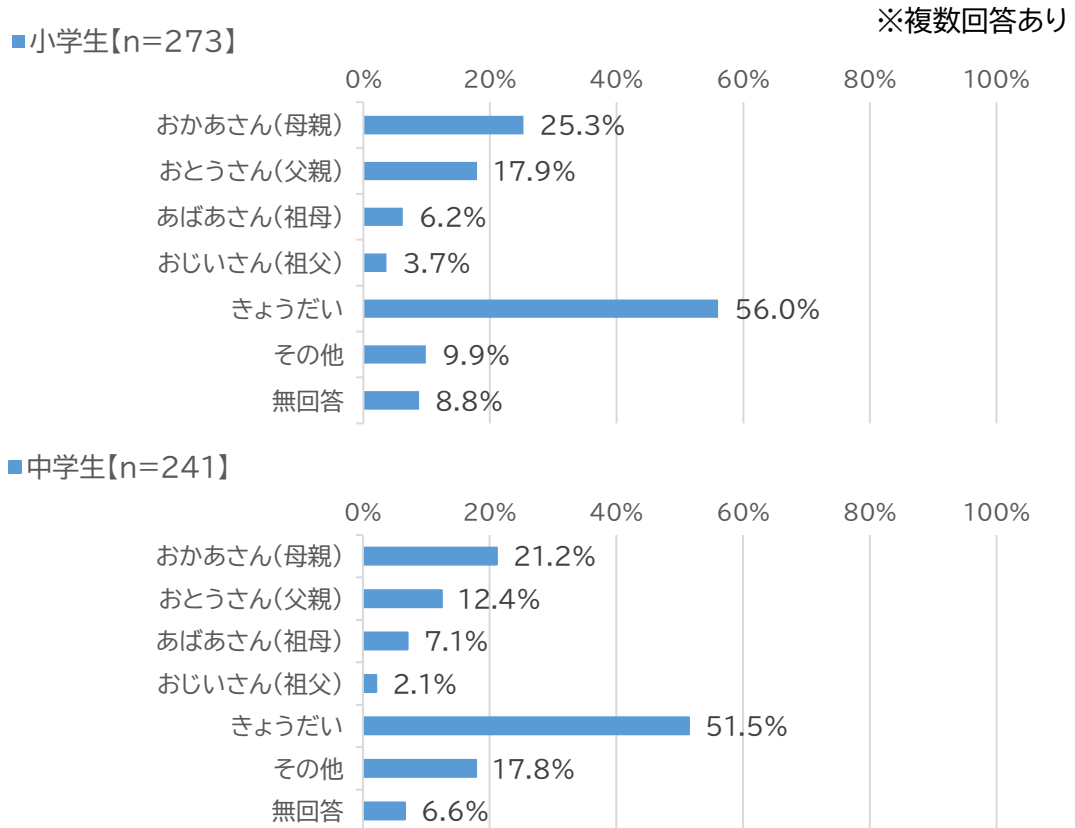
- ・ 家族構成は、小学生、中学生ともに「二世帯世帯」が最も大きく、次いで「三世帯世帯」、「ひとり親家庭」でした。



二世帯世帯 :子どもと父母からなる世帯(ひとり親家庭を除く)  
 三世帯世帯 :子ども・父または母・祖父または祖母からなる世帯  
 ひとり親家庭 :子どもと父、若しくは、子どもと母からなる世帯  
 その他の世帯 :上記以外の世帯

### (3) お世話の対象

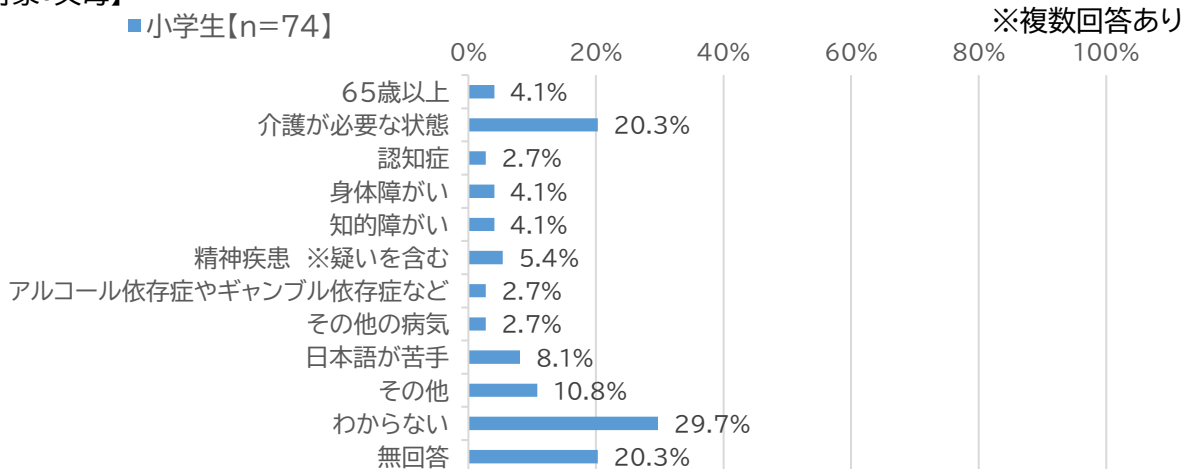
- ・ お世話の対象は、「きょうだい」が最も多く、次いで「おかあさん(母親)」、「おとうさん(父親)」でした。「その他」の回答内容はペットが多く、曾祖母や甥などの回答も見られました。



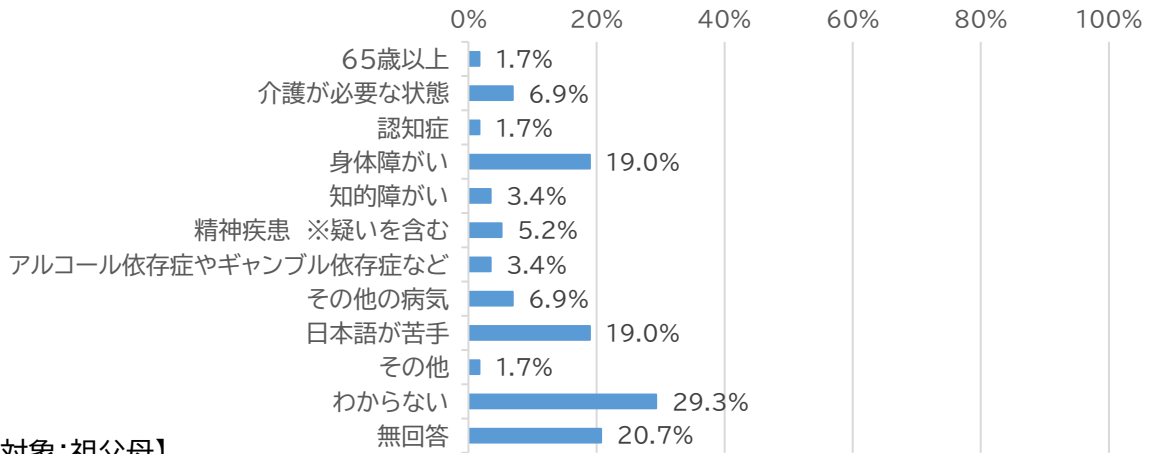
### (4) お世話の理由

- ・ お世話をしている理由は、お世話の対象が【父母】の場合、小学生では「介護が必要な状態」、中学生では「身体障がい」「日本語が苦手」の割合が大きくなっています。お世話の対象が【祖父母】の場合は、小学生、中学生ともに「65歳以上」、対象が【きょうだい】の場合は、小学生、中学生ともに「若い」の割合が大きくなっています。

#### 【対象:父母】

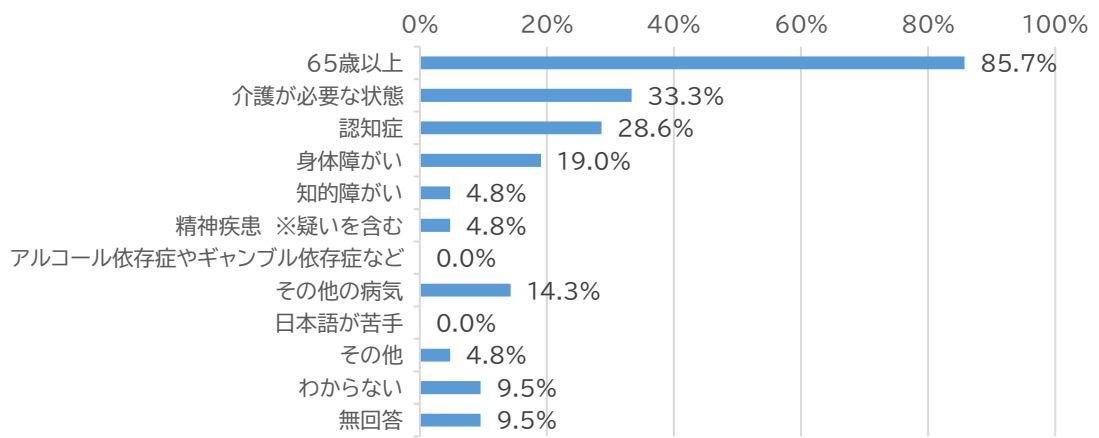


■中学生【n=58】

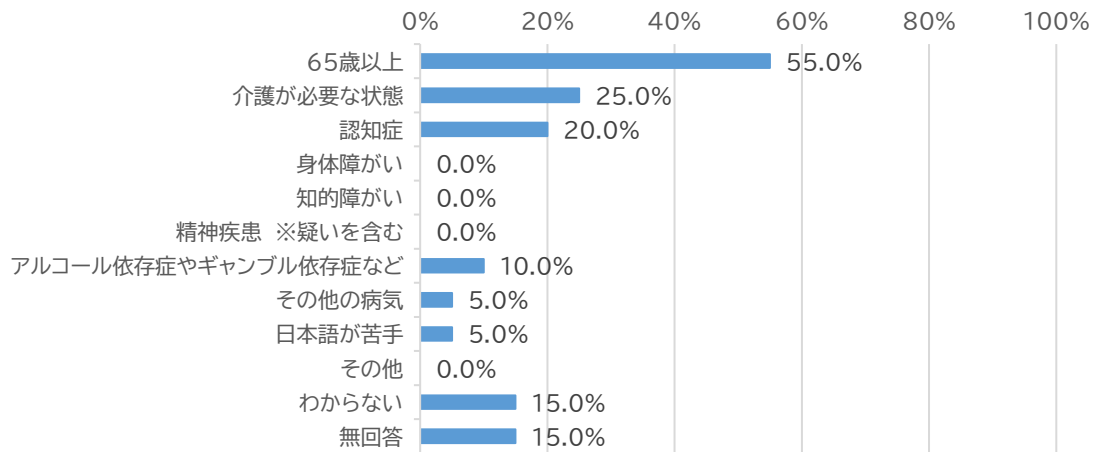


【対象:祖父母】

■小学生【n=21】

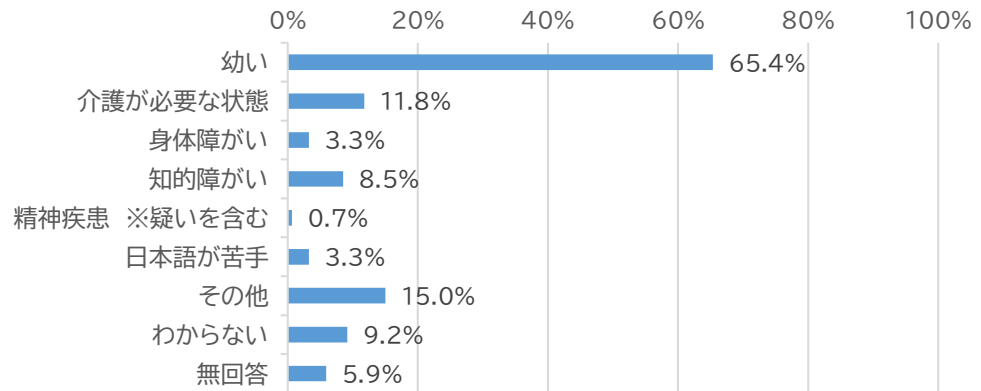


■中学生【n=20】

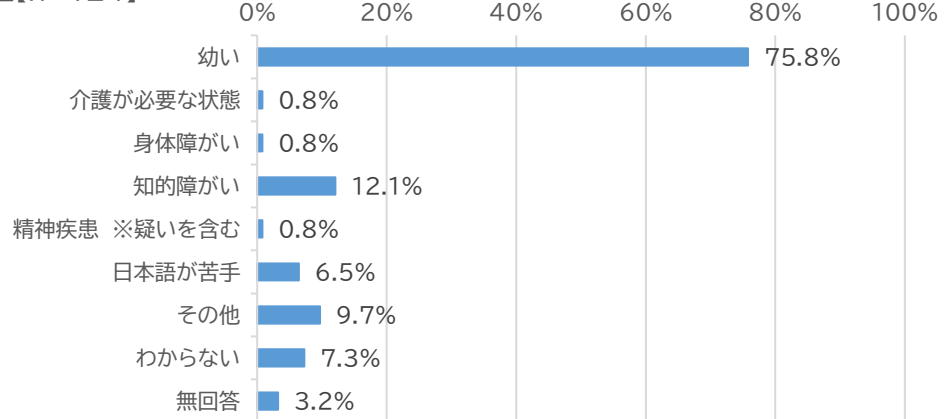


【対象:きょうだい】

■小学生【n=153】

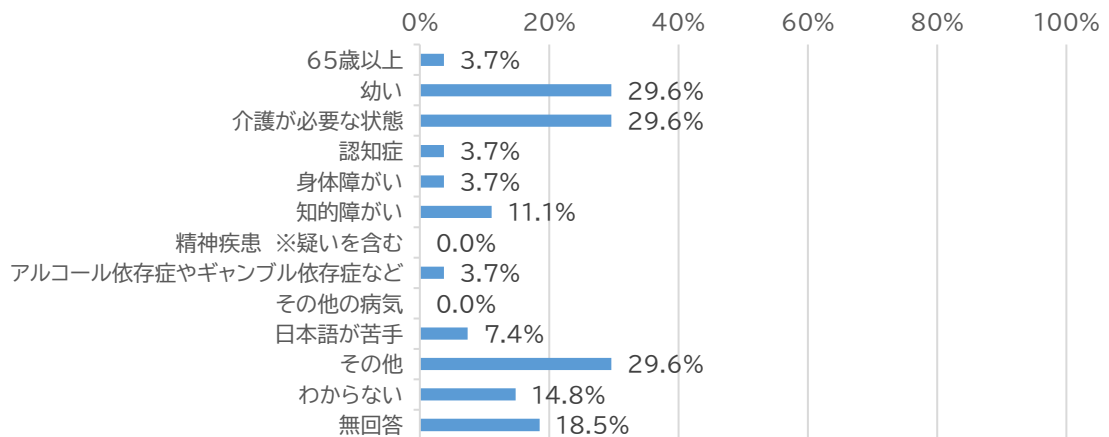


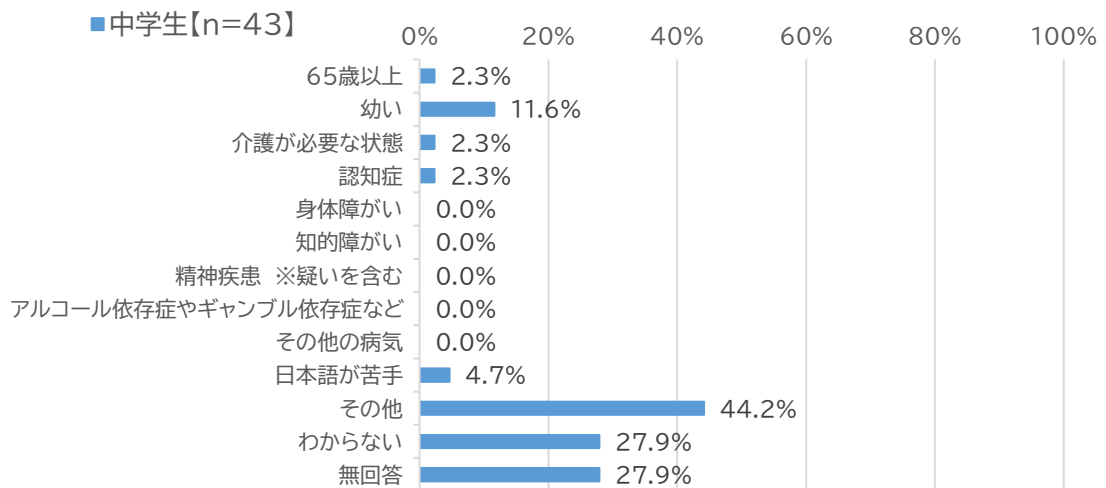
■中学生【n=124】



【対象:その他】

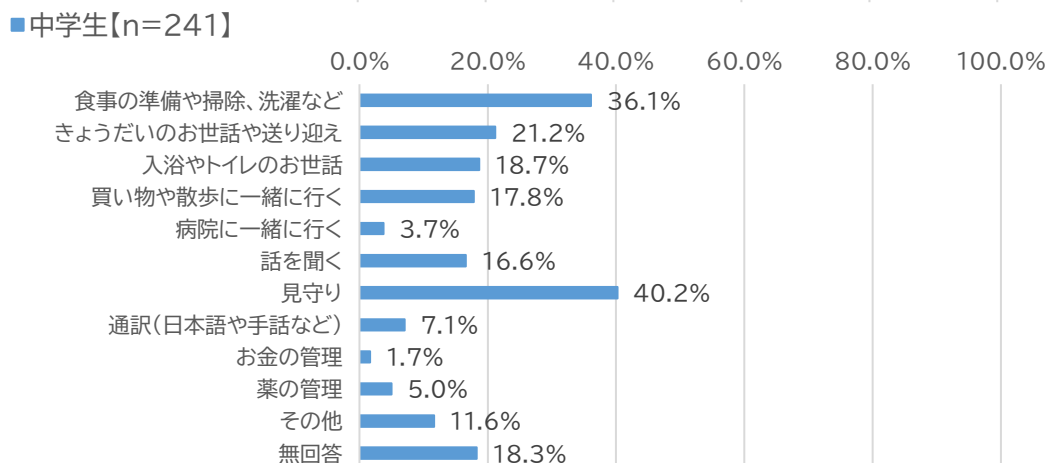
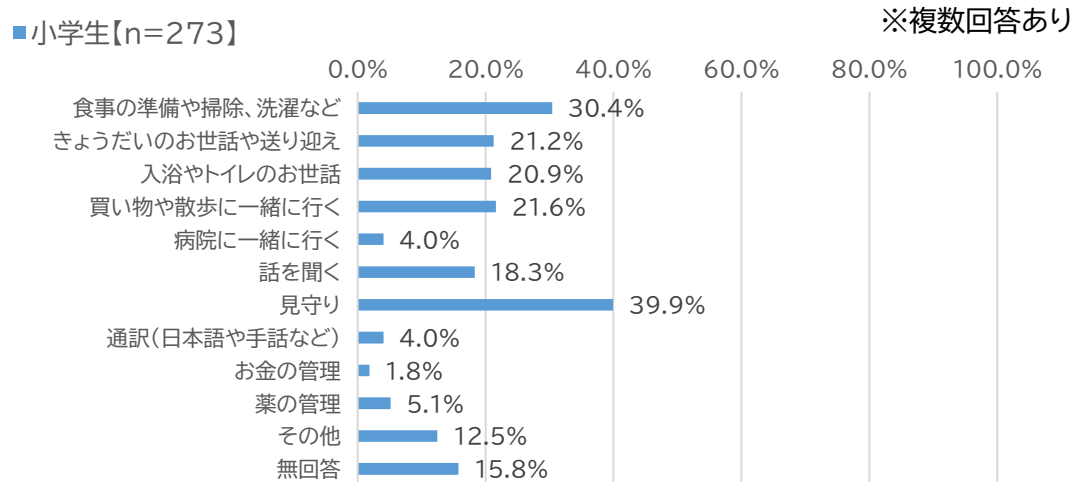
■小学生【n=27】





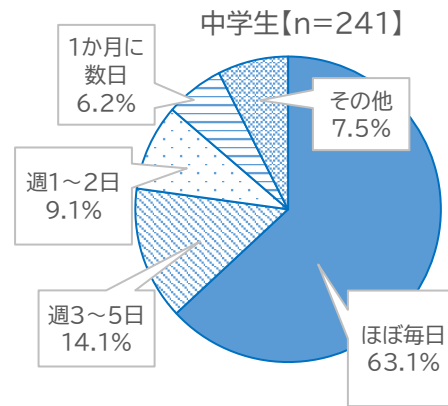
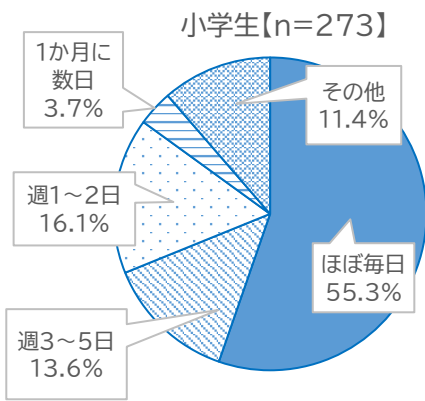
### (5) お世話の内容

- お世話の内容は、小学生、中学生ともに「見守り」の割合が最も大きく、次いで「食事の準備や掃除、洗濯等」でした。



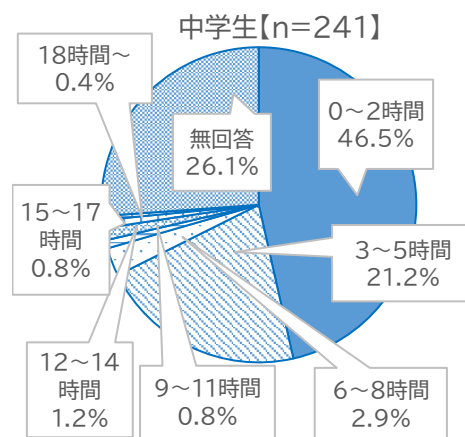
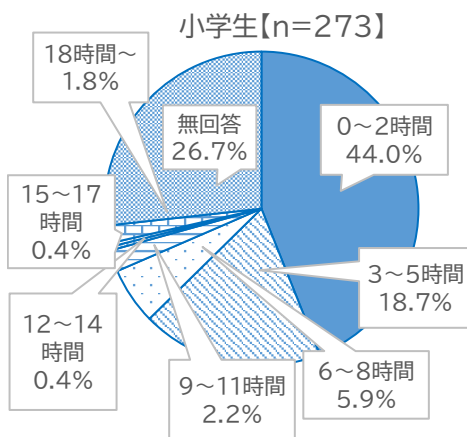
### (6) お世話の頻度

- お世話の頻度は、小学生、中学生ともに「ほぼ毎日」が半数を超えています。



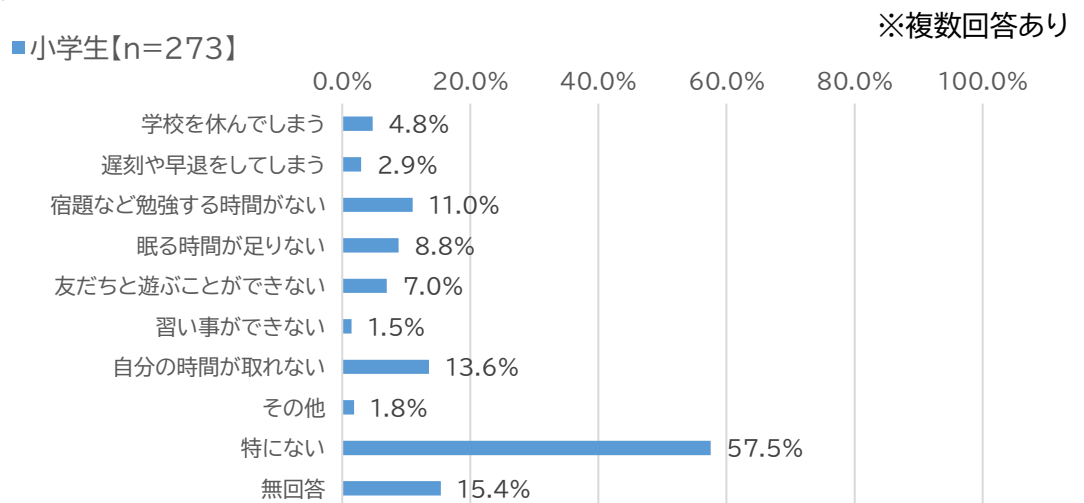
### (7) お世話の時間

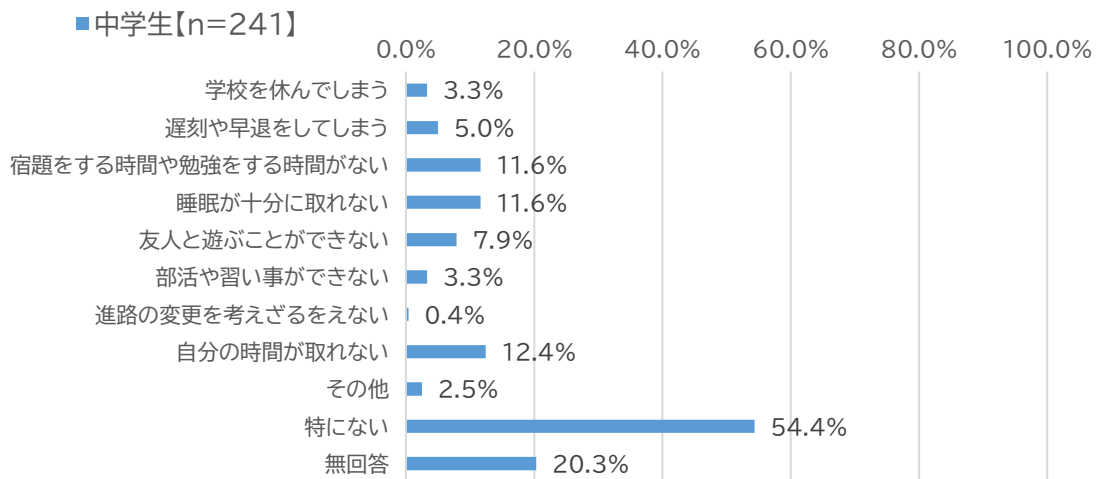
- お世話の時間は、「0～2時間」と回答した人の割合が小学生、中学生ともに最も大きかったです。3時間以上と回答した人の割合は、小学生で29.3%(80人)、中学生で27.4%(66人)でした。



### (8) お世話の影響

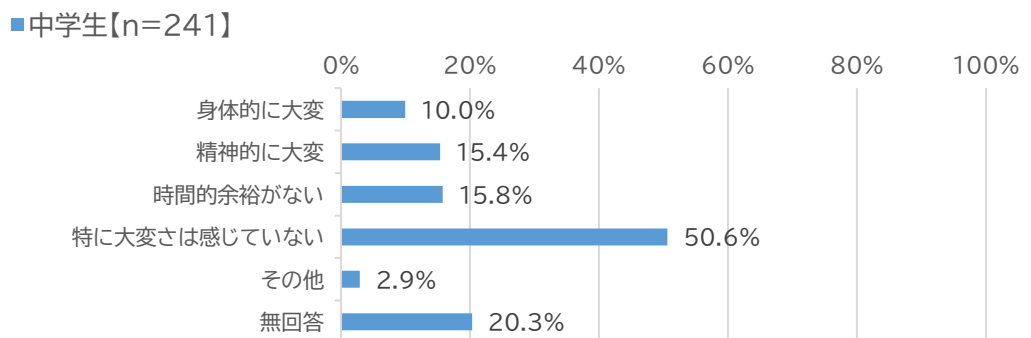
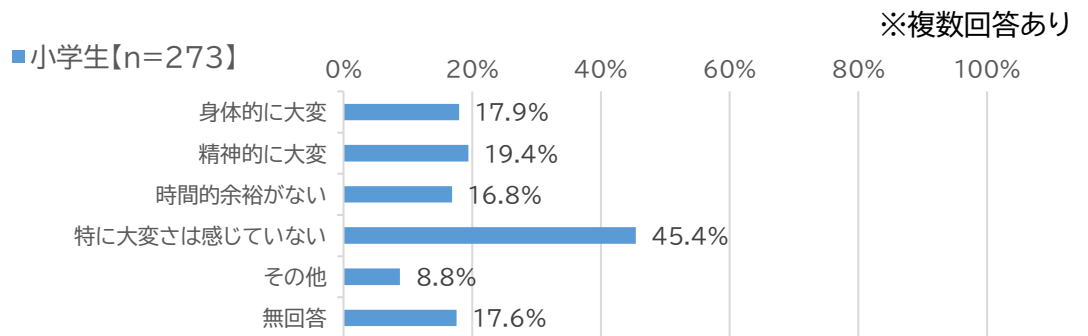
- お世話の影響は、小学生、中学生ともに「特にない」が5割以上で最も大きくなっています。他に、「自分の時間が取れない」「宿題など勉強する時間がない」「眠る時間が足りない」などの回答が見られました。





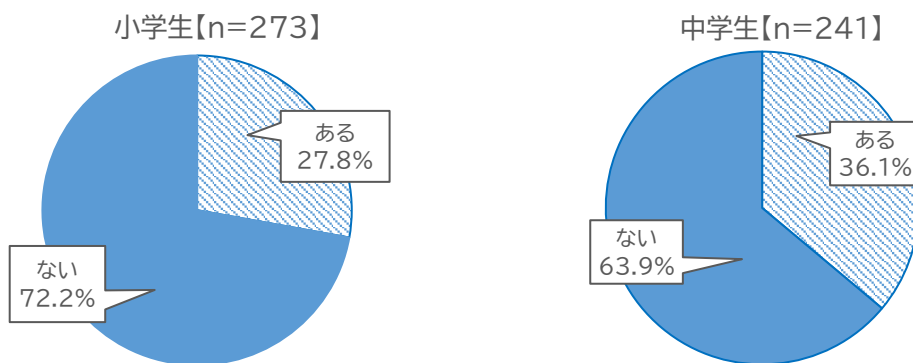
### (9) お世話をすることの大変さ

- ・ お世話をすることの大変さについて、小学生、中学生ともに「特に大変さは感じていない」と回答した人の割合が最も大きかったですが、「精神的に大変」「身体的に大変」「時間的余裕がない」の回答も見られました。



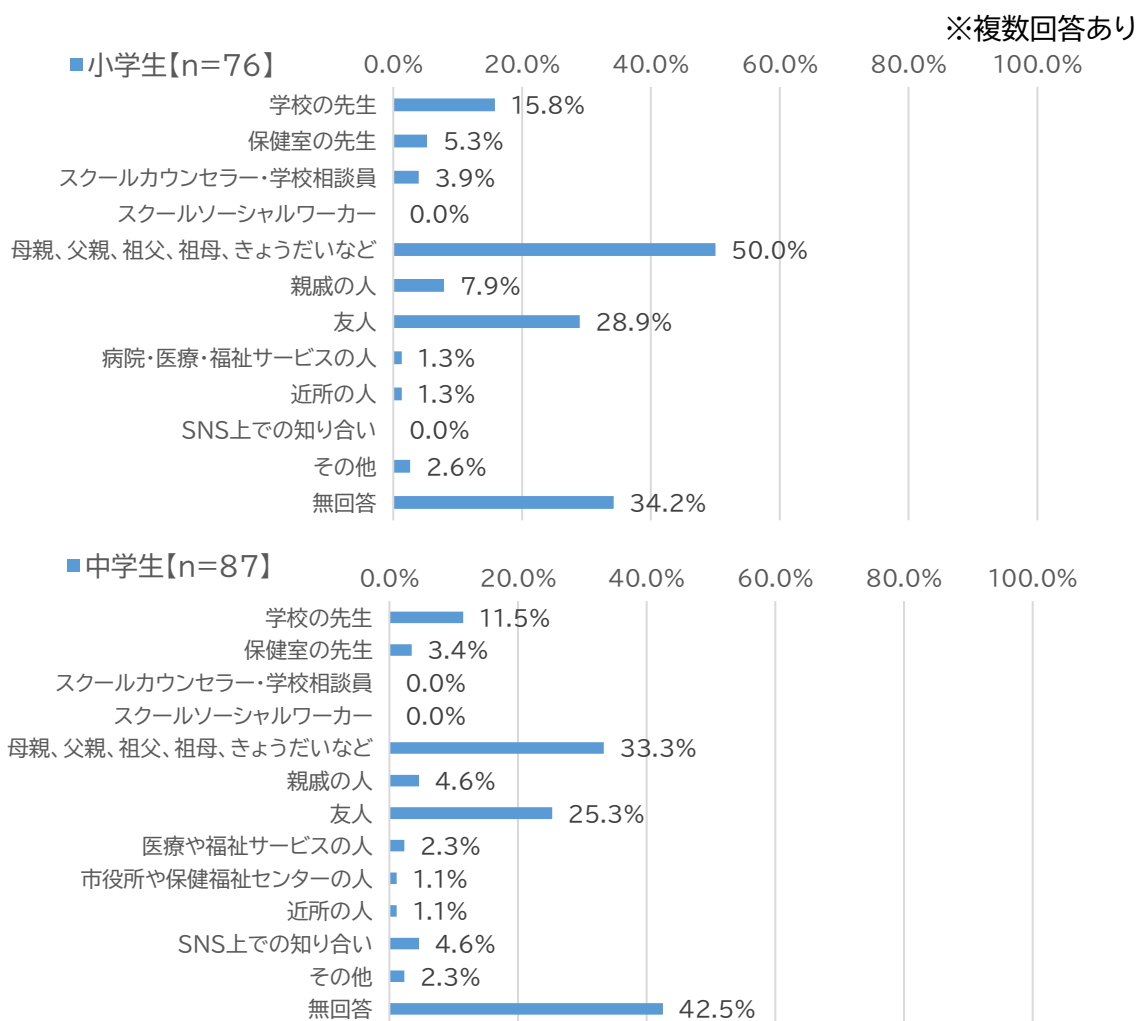
### (10) お世話をすることを相談した経験

- ・ お世話をすることを相談した経験について「ある」と回答した人の割合は、小学生で27.8%(76人)、中学生で36.1%(87人)でした。



(11) お世話を相談した相手

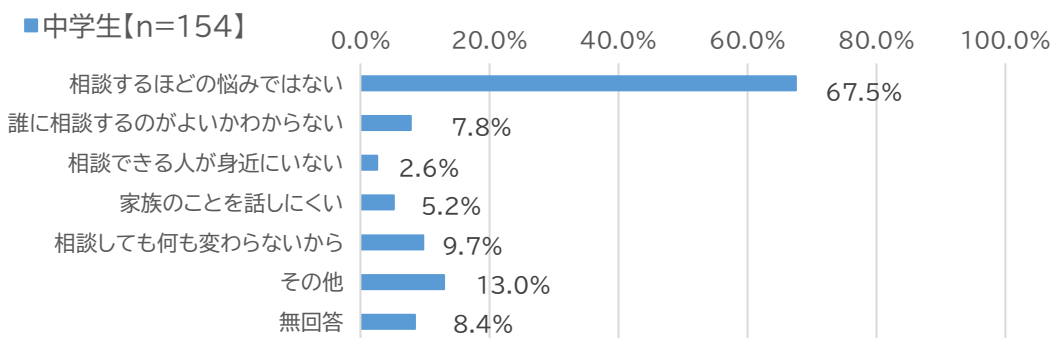
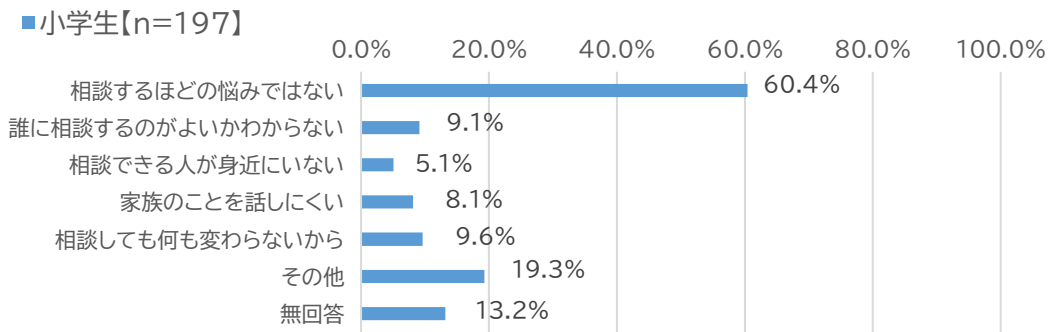
- ・ お世話を相談した相手は、「母親、父親、祖母、祖父、きょうだいなど」と回答した人の割合が小学生、中学生ともに最も大きく、次いで「友人」、「学校の先生」でした。



(12) お世話を相談したことがない理由

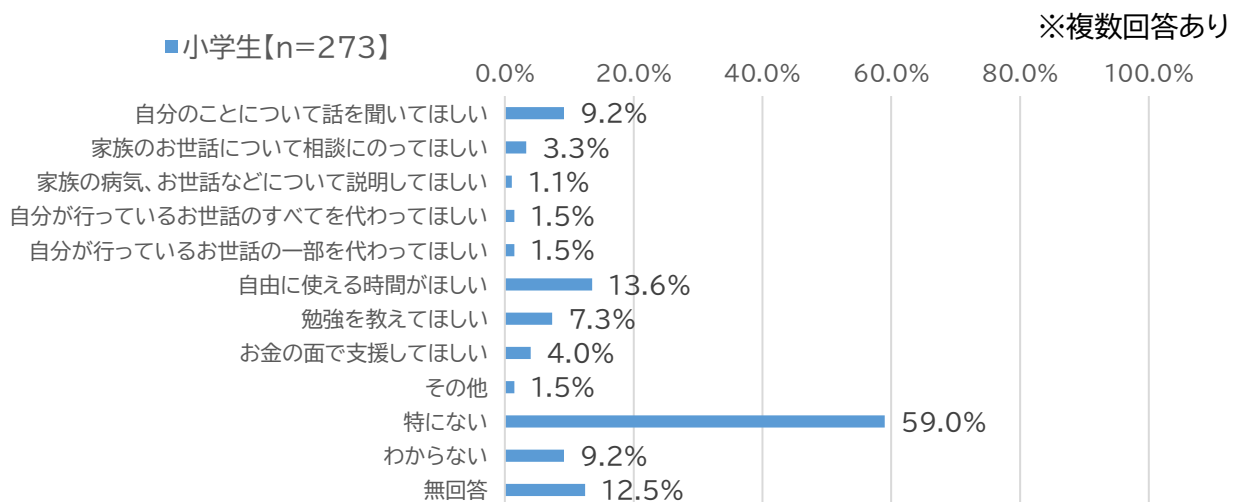
- ・ お世話を相談したことが「ない」と回答した理由は、小学生、中学生ともに「相談するほどの悩みではない」の割合が最も大きくなっています。また、「その他」と回答した中にも、「相談することがない」「困っていない」などの回答がありました。

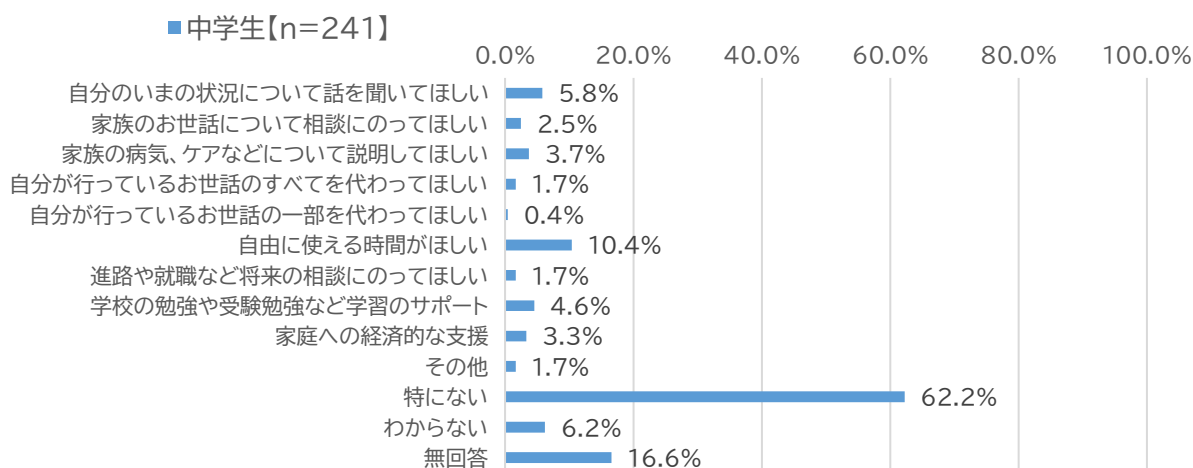
※複数回答あり



### (13) 助けてもらいたいことや必要としているサポート

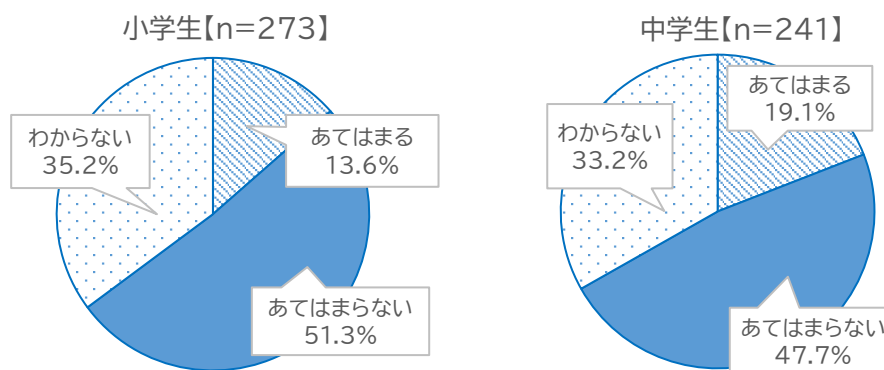
- ・ 助けてもらいたいことや必要としているサポートについては、「特にない」と回答した人の割合が小学生、中学生ともに半数を超え、次いで、小学生は「自由に使える時間がほしい」、「無回答」、「自分のことについて話を聞いてほしい」「わからない」でした。中学生は、「無回答」、「自由に使える時間がほしい」、「わからない」でした。





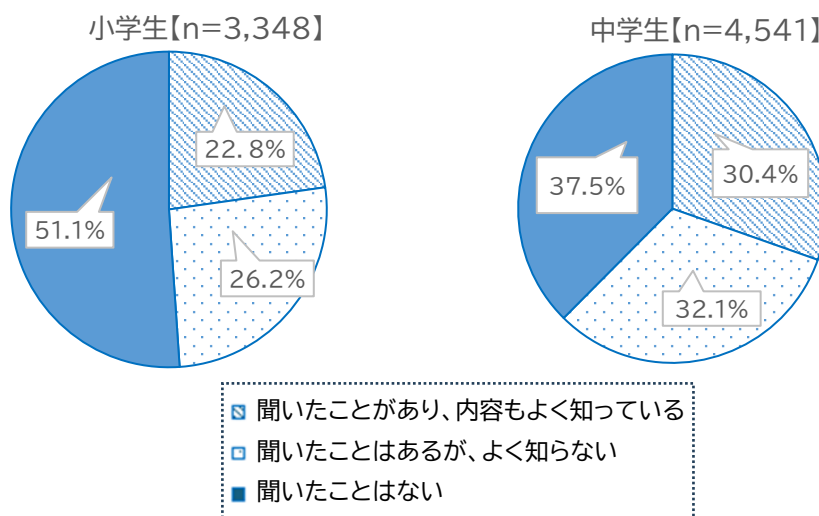
#### (14) ヤングケアラーの自覚

- ・自身をヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人の割合は、小学生で13.6%(37人)、中学生で19.1%(46人)でした。



#### (15) ヤングケアラーの認知度

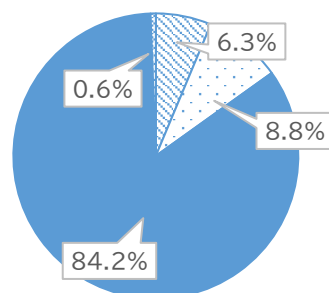
- ・全ての回答者のうち、「ヤングケアラー」という言葉をこのアンケートの前に「聞いたことがあり、内容もよく知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人の割合は、あわせて小学生で48.9%、中学生で62.5%でした。一概に比較することはできませんが、国の調査よりもヤングケアラーの認知度が高い傾向にありました。



【参考 国調査 ヤングケアラーの認知度】

- ☑ 聞いたことがあり、内容もよく知っている
- 聞いたことはあるが、よく知らない
- 聞いたことはない
- ⊗ 無回答

中学2年生【n=5,558】



中学2年生:三菱UFJリサーチ&コンサルティング「ヤングケアラーの実態調査に関する調査研究報告書」令和3年3月

(16) アンケート調査後の面談について

- ・ 家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人のうち、支援検討対象は小学生で17人(6.2%)、中学生で32人(13.3%)でした。
- ・ 見守り対象は、小学生で136人(49.8%)、中学生で85人(35.3%)と、家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人の中での割合が大きかったです。
- ・ アンケート調査後に、学校へ面談の状況を聞き取ったところ、保護者との面談に至った人はいませんでしたが、「子どもと面談・声掛けを行った」「見守り対象の特定ができなかった」「引き続き見守りをおこなっている」との声が多く聞かれました。中には、本調査以外でも気になる子どものフォローを行っている・保護者と面談した・関係課と調整している等の意見がありました。

○ 見守り対象と支援検討対象者数

	対象者数	回答者数	お世話をしている家族が「いる」と回答した人	①支援検討対象	②見守り対象
小学校	3,963	3,348	273	17 ※(0.5%) ※(6.2%)	136 ※(4.1%) ※(49.8%)
中学校	5,515	4,541	241	32 ※(0.7%) ※(13.3%)	85 ※(1.9%) ※(35.3%)

※上段:回答者数に対する割合、下段:お世話をしている家族が「いる」と回答した人に対する割合

大和市ヤングケアラーに関する実態調査報告書 全体版

／大和市 教育部青少年相談室・こども部すくすく子育て課 発行／

令和8年3月